

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	価値的・態度的側面のみならず、知識的側面や技能的側面に関する指導がバランスよく行われ、実践力・行動力の育成につながっている事例
-------	---

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町

○学校名

フォレストピア学びの森 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

○学校のURL

<http://www.miyazaki-c.ed.jp/gokase-h>

2. 学校紹介

○学級数

【前期課程】 3 学級 【後期課程】 6 学級 【合計】 9 学級

○児童生徒数

【全生徒数】 231 人（平成26年11月27日現在）

【前期課程生徒数】 119 人

（前期内訳：1 学年 40 人、2 学年 40 人、3 学年 39 人）

【後期課程生徒数】 112 人

（後期内訳：4 学年 38 人、5 学年 38 人、6 学年 36 人）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

宮崎県教育委員会『支え合う仲間づくり「ピア・サポート活動」推進事業』
平成24年度 グッドパートナーシップ推進校
平成25年度 ピア・サポート推進校
平成26年度 ピア・サポート推進校

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

恵まれた自然の中で感性を磨き、生徒一人一人の個性を開発する教育を通して、眼（まなこ）を世界に開き、未来を切り拓く、創造性豊かで主体的に生きる人間の育成を図る。

【学校の人権教育の目標】

人権の概念及び様々な人権課題についての理解と認識を深め、生命に対する畏敬の念を養うとともに、よりよい社会の実現に向けて、他者と共生していくことができる実践力を身に付ける。

○人権教育に係る取組一口メモ

参加体験型授業を体系的に取り入れながら、自己理解・他者理解を深め、人権意識や自己肯定感を高める実践

○人権教育にかかる取組の全体概要

【6年間の概要】

- ・ 1・2年生
自己や他者を尊重する人権について学ぶとともに、アサーティブネスを培う。
- ・ 3・4・5年生
ピア・サポート・トレーニングを通して、ピア（仲間）と互いに支え合う意識や他者を支えるスキルを段階的に学ぶ。
- ・ 6年生
進学・就職に向けて、実社会における差別の現状や実態について学ぶ。

3. 特色ある実践事例の内容

◆人権教育の一環として取り組むピア・サポート・トレーニング

(取組のねらい、目的)

本校は、学校生活や寮生活において、生徒同士が支え合う場面が多く、またその力が必要とされる。そして、同学年という横のつながりだけではなく、ファミリー制度（異学年集団）という本校独自の取組においても、全ての生徒にいずれ「先輩」（兄・姉）として、「後輩」（弟・妹）を支援する（相談にのる等）機会が訪れる。そのため、「だれもがピア・サポーターになる」という意識のもと、ピア・サポート・トレーニングを実施し、互いに支え合い励まし合う集団づくりの一助とすることを目的とする。

(取組を始めたきっかけ)

平成24年度に宮崎県教育委員会が主催する『「高校生による人権感覚あふれる人づくり」推進事業』（現在『支え合う仲間づくり「ピア・サポート活動」推進事業』）の一環として、「グッドパートナーシップ推進校」（現在「ピア・サポート推進校」）の指定を受けたことがきっかけである。

(取組の内容)

- ・平成24年度

対象学年：出前授業…全学年

ピア・サポート・トレーニング…4年生（高校1年生）

※本校では5年生が、学校や寮の委員会活動、文化祭・体育祭等の実行委員会等の中心となる。よってその意識と心構えをもたせた。

取組の主体：グッドパートナーシップ推進委員会（教育相談委員会）、担当者

取組の頻度：出前授業 年間1回

ピア・サポート・トレーニング 年間5回

（10月～2月の間、月に1回LHR活動で実施する）

<トレーニング内容>※毎回ウォーミングアップ後、エクササイズに取り組む。

第1回 ガイダンス（心のハート）

第2回 自己理解（エゴグラム）

第3回 聴く練習（FELOR の理解）

第4回 「気持ちに焦点づけた聴き方～F. E. L. O. Rモデル&アクティブ・リスニング」

第5回 上手な指示の出し方・まとめ・修了証授与

<トレーニングの様子>



〔第1回 ガイダンス（心のハート）〕



〔第5回 上手な指示の出し方〕

・平成25年度

対象学年：ピア・サポート・トレーニング…4・5・6学年

取組の主体：ピア・サポート推進委員会（教育相談委員会）

ピア・サポート・トレーニング担当者、人権教育担当者

取組の頻度：ピア・サポート・トレーニング 年間4回

（内訳 4年生2回、5年生1回、6年生1回）

出前授業 年間1回（4・5年生対象）

・平成26年度

対象学年：ピア・サポート・トレーニング…3・4・5学年

取組の主体：ピア・サポート推進委員会

学年、ピア・サポート・トレーニング担当者、人権教育担当者

今年度より、対象学年内で各回の授業者を決めてもらい、ピア・サポート・トレーニング担当者が作成した指導案をもとに事前に打ち合わせをし、実施した。

取組の頻度：ピア・サポート・トレーニング 年間7回で計画・実施中である。

（内訳 3年生2回、4年生3回、5年生2回）

初年度は、ピア・サポート・トレーニングについて、担当者の理解が浅かったため、職員対象の研修に参加したり、前年度の指定校の実践を手本としたりしながら、計画・実践を行った。また、職員に対して職員研修を実施し、一部ではあるが、ピア・サポート・トレーニングを体験してもらった。各回の実施は全て担当者が実施し、その都度全職員に指導案を配付し、周知と理解を図った。

2年目は、ピア・サポート・トレーニングの対象を後期生全体に広げた。また、トレーニングにおいては、人権教育担当者とのT・Tで実施した授業もあった。

3年目は、年度当初にピア・サポート・トレーニングを組み入れた本年度の人権教育計画を職員に示し、各学年にトレーニングの実施を依頼し、回ごとに実施者を決めてもらった。実施にあたっては、担当者が作成した指導案を用い、事前に授業者と担当者が打合わせを行い実施した。

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

・取組を実施する際に生じた課題

本校は全寮制で、日課が決まっているため、放課後に1学年が全員で活動できるような時間はない。よって初年度の取組が始まる際は、トレーニングの実施時間帯をいつにするかということが課題となった。

・課題に対する解決方法

4年生の10月～2月に、LHR活動において月に1時間（1回）ずつ実施することとした。現在は、年度当初に作成される「LHR活動年間計画」に組み入れ、計画的に実施している。

5. 実践事例の実績、実施による効果

(取組の実績)

・本年度の取組

本年度のピア・サポート・トレーニングは、3～5年生を対象に、以下の内容で実施・計画している。なお①～⑤の数字は、これまでのトレーニングを通算した回数を示す。

○3年生

第1回(6/10) トレーニング①「心のハート」

第2回(12/16) トレーニング②「FELOR」(傾聴)

○4年生

第1回(6/10) トレーニング①「心のハート」

第2回(9/30) トレーニング②「FELOR」「アクティブ・リスニング」

第3回(1/20) トレーニング③「上手な指示の出し方」

○5年生

第1回(6/10) トレーニング④「上手な指示の出し方」

第2回(1/20) トレーニング⑤「対立の解消」

・取組が効果を上げた実際の事例

どのような効果があったか、具体的に検証することはできなかったが、生徒の感想の中に、この取組の効果を実感した内容のものが多く見られた。トレーニングを通して、日ごろの自分を振り返り、これからの実践をイメージできたようだ。

<生徒の感想>

- ・相手の意見を聞くときにうなずきながら聞くことができるようになった気がします。
- ・話を聞く（聴く）ときは耳と目と心を傾けるということを知り意識するようになりました。
- ・今回のピア・サポート・トレーニングでは「聴く」ということでトレーニングをしましたが、エクササイズでのペアワークでは、聴き方一つで大幅に変わるものなんだなあと感じました。よくよく振り返ってみると、他人の話を聴くとき、そんな態度をとっていなかったっけ？と思い、反省したところでした。今後、今日学んだことをしっかりと忘れず、友人たちと接していきたいと思います。

・取組の実施から得られた知見・経験により改善を図った事項

実施後の生徒の感想の中には、このトレーニングの必要性を実感するという内容のものが多数見られた。また、3年生に対しても実施した方がよいという感想もあり、前期生の最高学年となる3年生からピア・サポート・トレーニングを開始することとした。また、今年度は人権教育の年間計画の中に、ピア・サポート・トレーニングを位置づけ、3年生から5年生までの3年間をかけて継続して取り組んでいくという計画を立て、実践している。

6. 実践事例についての評価

・取組についての評価、及びその評価する理由

中学1年生～高校3年生までの6年間を学校・寮で共に過ごす生徒には、生徒同士で学び合い、助け合う機会が非常に多いといえる。そのような本校の生徒にとって、本取組は、大変有意義なものであると認識している。出前授業やトレーニング後の生徒の感想を通して、生徒が毎時間大変前向きにこの取組をとらえていることがうかがえる。生活の様々な場面において支え合い、時には、もっと別の対応ができたのではないかという思いを経験してきた生徒にとって、人を支援する方法のヒントを身に付けられること、そしてそれが少しでも実践に生かせることは、自己肯定感の高まりや自信にもつながるのではないかとと思われる。

・現在、実施に当たって課題と感じていること

今年度より、3年間をかけて継続して取り組んでいくよう計画しているが、初年度のように短期間に、短いスパンでトレーニングを重ねた方が生徒にとって良いのかという迷いは生じている。しかし、なかなか一学年のLHR活動を5～6時間用いることは厳しいため、まずは昨年度より実施しているように、複数年度をまたいで継続的・段階的に取り組めるような計画・体制づくりを行っていきたいと考えている。

また、研修等で、指導者がいれば、その数だけトレーニングもあると聞いた。向き合う生徒の実態に応じて、取組内容を工夫することも意識していきたい。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

フォレストピア学びの森 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

6年制中等教育学校において、参加体験型授業を体系的に取り入れつつ、自己理解・他者理解を深めることで生徒の人権意識や自己肯定感を高めようとしている事例である。人権教育の一環として、各学年で年間5回のピア・サポート・トレーニングを実施し、自他の人権を尊重する姿勢、互いに支え合う意識、それに必要なスキルを段階的に学習できるように指導上の工夫をすることで、学校生活や寮生活において、生徒同士が支え合い、励まし合う集団づくりを促進し、成果をあげている。